

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年8月31日※1  
(前回公表年月日：令和4年8月31日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																								
神戸電子専門学校	昭和51年4月1日	福岡壯治	〒 650-0003 (住所) 兵庫県神戸市中央区山本通1丁目6番35号 (電話) 078-242-0014																																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																								
学校法人 コンピュータ総合学園	昭和52年2月28日	福岡富雄	〒 650-0003 (住所) 兵庫県神戸市中央区山本通1丁目6番35号 (電話) 078-242-0014																																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																						
工業	工業専門課程	ITスペシャリスト学科		平成6年度 文部大臣認定	-																																						
学科の目的	本学科は、高等学校を卒業した者又は高等学校卒業と同等の学力があると認められる者で、情報処理分野での活躍を目指す志望者に専門教育を行い、システム構築プロジェクトの中で活躍できるITエンジニアを育成することを目的とする。																																										
認定年月日	平成27年2月17日																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																				
3年	昼間	2550時間	1258時間	2108時間	0時間	0時間	0時間																																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																						
210人	305人	6人	20人の内数	14人の内数	34人の内数																																						
学期制度	■前期：4月1日～10月14日 ■後期：10月15日～3月31日		成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準：各期末の成績評価で、80点以上を5、60点以上80点未満を4、40点以上60点未満を3、20点以上40点未満を2、20点未満を1とする。 評価の方法：成績評価は試験、平常評価、レポート、実習課題、合評審査により行う。																																						
長期休み	■夏季：7月20日～8月31日 ■冬季：12月20日～1月7日 ■春季：3月20日～4月10日		卒業・進級条件		卒業要件： 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業までに履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ各年次の出席率80%以上の者。 進級要件： 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該年次で履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ年間の出席率80%以上の者。																																						
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 家庭訪問、保護者への電話連絡、保護者への定期的な欠席状況連絡、学生・保護者との面談		課外活動		■課外活動の種類 クラブ・同好会、学園祭実行委員会、各種学外連携イベント、各種学外コンテスト、インターンシップ ■サークル活動：有																																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 情報処理業界(システムエンジニア・プログラマー) ・富士ソフト株式会社 ・株式会社アウトソーシング ・コベルソフトウェアサービス株式会社 ■就職指導内容 就職ガイダンス、履歴書記入指導、模擬面接、個別面談 ■卒業生数：84人 ■就職希望者数：81人 ■就職者数：79人 ■就職率：98% ■卒業者に占める就職者の割合：95% ■その他 ・進学者数：0人 ・就職未決定者数：5人 (令和4年度卒業者に関する 令和5年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>C言語能力認定試験2級</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>C言語能力認定試験3級</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>情報検定情報活用1級</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>情報処理技術者能力認定2級</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>情報処理技術者能力認定3級</td> <td>③</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>G検定</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>AI検定</td> <td>③</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	4	4	C言語能力認定試験2級	③	0	0	C言語能力認定試験3級	③	0	0	情報検定情報活用1級	③	0	0	情報処理技術者能力認定2級	③	0	0	情報処理技術者能力認定3級	③	3	3	G検定	③	0	0	AI検定	③	0	0
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
基本情報技術者試験	③	4	4																																								
C言語能力認定試験2級	③	0	0																																								
C言語能力認定試験3級	③	0	0																																								
情報検定情報活用1級	③	0	0																																								
情報処理技術者能力認定2級	③	0	0																																								
情報処理技術者能力認定3級	③	3	3																																								
G検定	③	0	0																																								
AI検定	③	0	0																																								
中途退学の現状	■中途退学者 8名 令和4年4月1日時点において、在学者308名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者300名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 経済的理由、進路変更、健康理由		■中退率 3%		■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 担任を中心に、面談や退学防止に向けた相談・指導を行っている。更にカウンセラーによるカウンセリングにより、特に精神面において問題のある学生に対する相談を行っている。 経済面に対しては、学費や奨学金相談の窓口を設け、対応できるようにしている。																																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度、経済的理由により修学が困難な学生に対する授業料減免制度 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： 受審年月： 評価結果を掲載したホームページURL																																										
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.kobedenshi.ac.jp/course/it/itspecialist.html">https://www.kobedenshi.ac.jp/course/it/itspecialist.html</a>																																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本学科における実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程（カリキュラム）の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善等を含む）に活かすことを目的に、教育課程編成委員会（以下委員会という）を設置する。

委員会は、業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性、実務に必要な最新の知識・技術・技能、その他教育課程の編成に関する事項を審議する。

委員会の委員は校長及び校長が指名する教職員の他、専攻分野に関する企業等の役職員から広く選任するものとし、少なくとも以下の①または②から1名、③から1名を委員に加えることとする。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員。
- ② 専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者。
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員。

委員の任期は1年とする。但し再任を妨げない。

委員会の委員長は校長または校長が指名する教職員とし、委員会の会務を総理する。

委員会の実施結果については学校側委員および関連教職員により検討を行い、実践的かつ専門的職業教育を実施するために必要な教育課程の編成に活用する。

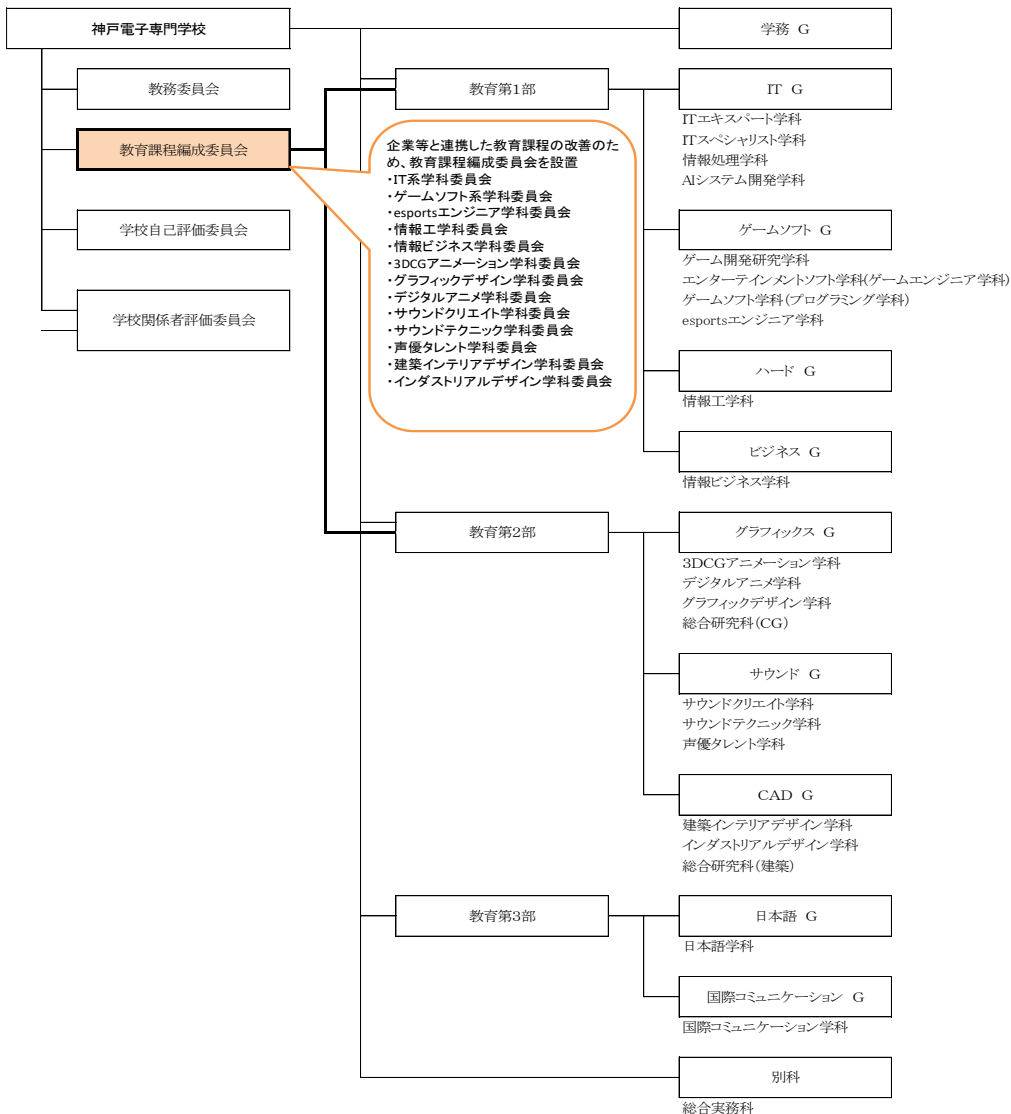
(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

本校に、学校全体の教務に関する事項を管理・運営する「教務委員会」とともに「教育課程編成委員会」「学校自己評価委員会」「学校関係者評価委員会」を置き、校長が統轄する。

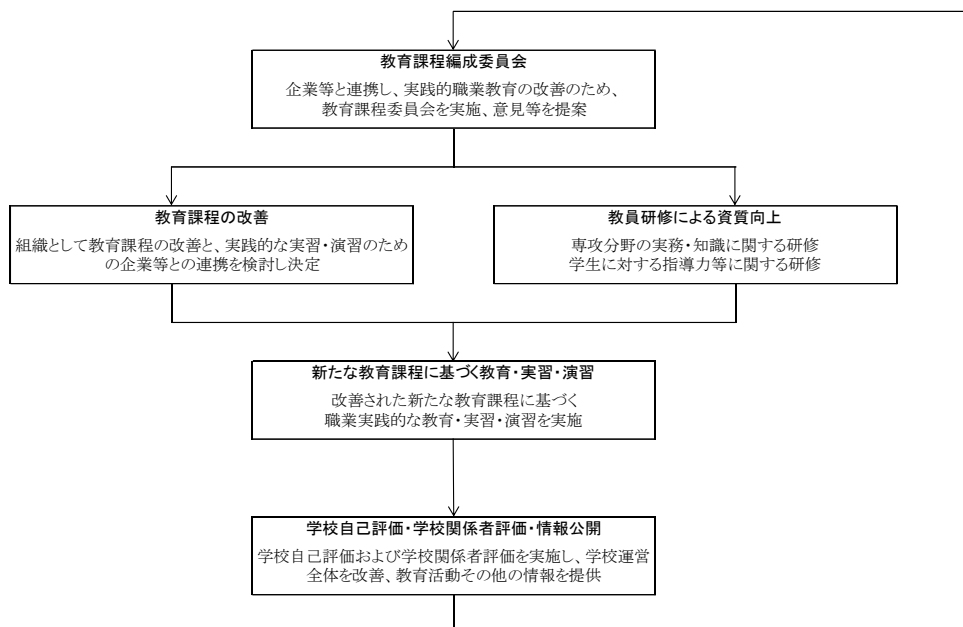
教務に関する事項は、以下のとおり定める。

- ・学則、履修規定等を励行し履修目的を実現させ、産業界へ優れた人材を輩出するすべての事項
- ・教育課程に関する事項（教育課程編成委員会を含む）
- ・履修状況、履修判定等に関する事項（進級、卒業等）
- ・教育課程の編成等、産官学連携に関する事項（教育課程編成委員会を含む）
- ・教職員の能力開発に関する事項（研修等）
- ・その他、教務に関する全般

神戸電子専門学校組織



教育活動のサイクルにおける教育課程編成委員会の位置



(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
中嶋 諭	地域ICT推進協議会 (COPLI) 幹事	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	①
長谷川 長一	株式会社ラック 新規事業開発部 産官学連携事業室 室長	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	③
福田 将宏	株式会社ミックウェア 経営管理部 部長	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	③
渡辺 淳	株式会社ブルーオーキッドコンサルティング 代表取締役	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	③
坂東 大輔	株式会社エンジニアリングサムライ 代表取締役	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	③
青山 宏和	神戸電子専門学校 教育第1部 部長	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	—
津田 孝夫	神戸電子専門学校 教育第1部 ITグループ リーダ	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	—
岡 晋一	神戸電子専門学校 教育第1部 ITグループ サブリーダ	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	—
網木 久美子	神戸電子専門学校 教育第1部 ITグループ サブリーダ	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	—
山口 あかね	神戸電子専門学校 教育第1部 ITグループ	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	—
佐藤 大輔	神戸電子専門学校 教育第1部 ITグループ	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	—
金 晟基	神戸電子専門学校 教育第1部 ITグループ	令和5年4月3日～ 令和6年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間3回（8月、11月、2月）

(開催日時)

令和4年度

第1回 令和4年 8月24日 10:00～11:30

第2回 令和4年12月 5日 15:30～17:00

第3回 令和5年 2月 2日 18:00～19:00

令和5年度

第1回 令和5年 9月 1日 実施予定

第2回 令和5年12月 実施予定

第3回 令和6年 2月 1日 実施予定

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況  
 R03年度の委員会での「実用性・収益性について学生には難しいのでは。企業に入った場合収益を考えることはない。他の専門学校では卒業評価ポイントとして社会化課題（神戸市などがあげてる課題）から選ばせている。そのような方法もありでは。」との提言に対してR04年度デジタルワークスで以下の対応を行った。  
 ・R04年度デジタルワークスより実用性・収益性賞を社会課題解決賞に変更した。  
 ・社会課題を解決することを目指した作品に対して該当部門賞の受賞対応を行った。  
 「運用ツールは統一してもらった方が良い。ツールは複数あるより1つの方がミスを少なくできる」に対してR03年度デジタルワークスの配信ツールをZoomに一本化した  
 「学生にフィードバックをするのにZoomのブレイクアウトルームでは足りなくて、コメントを付けてフィードバックができればと思う。」との提言に対して、R04年度デジタルワークスで以下の対応を行った。  
 ・デジタルワークス出場チーム以外の全学生の作品について展示サイトへの掲載を行うことで、企業委員および来賓企業が広く学生の作品を見ることが出来るようにした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 企業等の要請等を十分に生かしつつ、本科の専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的に、企業等と連携して実習・演習の授業を行う。  
 実施に当たっては連携する企業との間に、実習・演習の実施、実習・演習用教材の作成、実務的能力評価に関する補助等について協定書（業務委託契約）を締結する。  
 実習・演習は教育課程編成委員会の結果を活用して編成された教育課程に対して、職業実践的能力を修得するための実習・演習の内容や方法検討、実施、修得した実践的能力の評価等について企業等と連携して行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容  
 企業等の要請等を十分に生かしつつ、本科の専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的に、企業等と連携して実習・演習の授業を行う。  
 実施に当たっては連携する企業との間に、実習・演習の実施、実習・演習用教材の作成、実務的能力評価に関する補助等について協定書（業務委託契約）を締結する。  
 実習・演習は教育課程編成委員会の結果を活用して編成された教育課程に対して、職業実践的能力を修得するための実習・演習の内容や方法検討、実施、修得した実践的能力の評価等について企業等と連携して行う。  
 実習・演習の実施は連携する企業等から派遣された講師、または実施方法等について企業等との連携の上で本校教員が行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
キャリアデザイン	グループワークを通して、コミュニケーション能力を高める。発想技法を学び、グループワークの中で活かせるようにする。また、マナーを始め、社会人として必要とされることを習得して、卒業後に備える	アソシエイト・ゆう
データベース技術	SQLを中心としたデータベースへのアクセス手法を習得する。基本を学んだ上で、集計とグループ化、副問い合わせ、複数テーブルの結合など必要とされる手法についても学ぶ	株式会社ミックウェア
Linux I	Linux環境のインストール、環境設定、コマンド操作を通じLinuxの基礎を習得する。併せてOSの持つ基本的な概念として、プロセスやパイプライン処理、ネットワーク操作を学ぶ。これらの要素技術は、Linux IIでも継続して利用する	株式会社ラック
Linux II	Linuxにおけるサーバー環境の利用を体験・学習し、サービス構築の基盤構築の基礎を習得する。一般的なLAMPスタックの構築及びアプリケーションを動作できる学習する	株式会社ラック
プロジェクト管理	PBL（プロジェクト形式の学習）を中心に、IT開発プロジェクトのマネジメント手法、およびシステムの企画や顧客の要望のとりまとめなどの上流工程を模擬プロジェクトの遂行により学習する	株式会社ブルーオーキッドコンサルティング

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針  
 神戸電子専門学校教職員は業務上の能力開発、資質の向上等に関し組織的に研修に取り組む。教員は職業専門教育を実践するFD（ファカルティデベロップメント）を主題とし、専門的技術力（専攻分野における実務に関する知識、技術、技能）の向上、および教育力（授業および学生に対する指導力）向上等を目的として実施する。  
 ・学校全体研修は全教職員を対象とし、年間1～2回の研修を実施する。  
 ・部署別研修は部署教職員を対象とし、任意の研修を実施する。  
 ・個人研修は所属部門長の指示により、任意の研修を実施する。  
 教職員の資質向上および教育の質保証のために、積極的に外部の研修へ参加を奨励する。一部の者が参加する外部研修の結果等については、必要に応じ関連学科・部署または教員全体への報告会等を開催し共有を図る。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 内製化の武器『ノーコード開発』を始めるには ～ITベンダーに頼らず、現場主導のデジタル化を導入 リスク低くスムーズ  
 連携企業等： SCSK株式会社  
 期間(日時)： 令和4年5月27日(金) 15:00～15:50  
 対象： IT系学科教員  
 内容： 1. DXを進めるために2. ノーコード開発が企業を変える3. ノーコード開発で解決する具体的な業務とは4. CELFとは5. 他のノー

コード開発ツールとCELFの違い6. デモンストレーション	
研 修 名:	内製化の武器『ノーコード開発』を始めるには ～ITベンダーに頼らず、現場主導のデジタル化を導入 リスク低くスムーズ
連携企業等:	SCSK株式会社
期間(日時):	令和4年5月27日(金)15:00～15:50
対 象:	IT系学科教員
内 容:	1. DXを進めるために2. ノーコード開発が企業を変える3. ノーコード開発で解決する具体的な業務とは4. CELFとは5. 他のノーコード開発ツールとCELFの違い6. デモンストレーション
研 修 名:	AWS Summit Online
連携企業等:	AWS
期間(日時):	令和4年5月28日(土)13:00～17:00
対 象:	IT系学科教員
内 容:	基調講演「未来を拓くクラウドの真価」(KEY-01)、「ボケて電笑戦」(SP-DENSHO)、「ボケて電笑戦技術解説 2022 ～AI は人を笑わせられるのか? 挑戦を支える技術と AWS～(SP-DENSHO-VOD)」等を視聴
研 修 名:	OSC2022 Online/Nagoya 技術同人誌のすすめ
連携企業等:	OSPN
期間(日時):	令和4年5月28日(土)13:00～13:45
対 象:	IT系学科教員
内 容:	技術系同人誌というカテゴリの紹介、開発環境など
研 修 名:	OSC2022 Online/Nagoya / 平成生まれのためのUNIX&IT歴史講座
連携企業等:	OSPN
期間(日時):	令和4年5月28日(土)16:00～16:45
対 象:	IT系学科教員
内 容:	UNIX周辺の歴史と歴史的背景の紹介等
研 修 名:	ベネッセが進めるデジタル人材育成戦略 ～Udemyの有効活用法教えます!～
連携企業等:	一般社団法人日本ディープラーニング協会(JDLA)
期間(日時):	令和4年6月1日(水)18:00～19:10
対 象:	IT系学科教員
内 容:	ベネッセのデジタル人材育成の取り組みの内容や背景、Udemyの有効な使い方について
研 修 名:	健康経営やD&Iの視点からも注目される フェムテックについて
連携企業等:	COPLI
期間(日時):	令和4年5月30日(月)16:45～17:45
対 象:	IT系学科教員
内 容:	フェムテックのマーケティング報告と事例紹介
研 修 名:	Prediction One 新機能ガイドセミナー
連携企業等:	ソニービズネットワークス株式会社
期間(日時):	令和4年6月16日(木)16:00～17:30
対 象:	IT系学科教員
内 容:	SONYのローコード開発ツールPrediction One・モデルインポート/エクスポート・モデル更新/再学習・モデル監視・データ準備
研 修 名:	[AWS Academy] プログラムの制度変更 説明会
連携企業等:	Amazon Web Service
期間(日時):	令和4年6月21日(火)17:00～18:00
対 象:	IT系学科教員
内 容:	AWS Academy 2022年6月からの制度変更内容の説明と今後のAcademy運用について
研 修 名:	ノンデザイナーのためのUI・UX改善講座 ～DX担当者が知っておくべきデザインの基本とは～
連携企業等:	(株)ベネッセコーポレーション
期間(日時):	令和4年6月22日(水)11:00～12:00
対 象:	IT系学科教員
内 容:	UI・UX・CXの違いとは?センスに頼らないデザイン改善の定石とは?デザイナーとのプロジェクトを円滑に進めるポイントとは?など、「ノンデザイナー」のためのUI/UXの基本
研 修 名:	AWS Academy制度変更説明会
連携企業等:	AWS Academy Japan
期間(日時):	令和4年6月24日(金)17:00～18:00
対 象:	IT系学科教員
内 容:	AWS Academyの制度変更について(講師認定廃止、全コース利用可、新たな問い合わせ先、1年半ルール)
②指導力の修得・向上のための研修等	
研 修 名:	ハラスメント防止対策とアサーション
連携企業等:	一般社団法人カウンセリングルーム BigSmile
期間(日時):	令和4年4月1日(火)13:00～14:30
対 象:	全教職員
内 容:	学校業務におけるハラスメント対策とコミュニケーションについて
研 修 名:	JRRC著作権講座 初級オンライン
連携企業等:	公益社団法人日本複製権センター
期間(日時):	令和4年5月27日(金)13:30～16:30
対 象:	IT系学科教員
内 容:	著作権法の体系に沿って著作権制度の概要を分かり易く解説するとともに、理解を深めるために「判例解説&TOPICS」内において重要判例や最新の情報について解説
研 修 名:	JRRC著作権講座 中級オンライン

<p>連携企業等：公益社団法人日本複製権センター  期間(日時)：令和4年7月6日(水)10:30~16:40  対象：IT系学科教員  内容：本講座は知財法務部門などで実務に携わられている方、コンテンツビジネス業界の方や以前に著作権講座を受講された方など、著作権に興味のある方向けです。講師により体系的な解説と、最新の動向も学べる</p>
<p>研修名：DX時代の即戦力となるICT人材を育成するには  連携企業等：サイボウズ株式会社  期間(日時)：令和4年7月6日(水)16:30~17:20  対象：IT系学科教員  内容：ローコード開発ツールkintoneと活用事例のご紹介、kintone認定資格のご紹介と専門学校様へのカリキュラム化へのご提案</p>
<p>研修名：トラブル防止のための音の権利  連携企業等：株式会社オーディオストック  期間(日時)：令和4年7月7日(木)16:00~17:00  対象：全学科教員(選抜)  内容：学校での制作活動等における音源素材の著作権に関して</p>
<p>研修名：個人情報と人格権の保護に関する基礎研修  連携企業等：神戸海岸通法律事務所  期間(日時)：令和4年7月26日(火)10:00~12:00  対象：全教職員  内容：学校業務における個人情報と人格権の保護に関する取扱いについて</p>
<p>研修名：メンタルヘルス定例会  連携企業等：一般社団法人カウンセリングルーム BigSmile  期間(日時)：令和4年7月26日(火)14:00~15:00  対象：全学科教員(選抜)  内容：学生指導上の効果的なメンタルヘルスケアについて</p>
<p>研修名：第69回教職員教養講習会  連携企業等：兵庫県専修学校各種学校連合会  期間(日時)：令和4年8月2日(火)~令和4年8月5日(金)  対象：全学科教員  内容：8月2日：「ブランディング~神戸ビーフから例に~」  「専修学校の現状と課題、そして今後について」  「学習者の好奇心が爆発する探求型教育」  8月3日：「専門学校の最近の動向と制度について」  「神戸から発信する未来都市~078KOBE、UDC078の動きから~」  「学校現場でLGBTQをサポートするために」  8月4日：「高等学校教育の現状と課題~今後の方向」  「グループ・ディスカッション(テーマ)高等学校の教育プログラムとの連携~「高専連携教育プログラム」の中で専門学校教職員として何が出来るか？」  8月5日：「法改正による18歳成人のメリット・デメリット」  「ハラスメントについて」  「メディアアートとクリエイティブワーク、AR、XR等先端技術トレンドについて」</p>
<p>(3) 研修等の計画  ①専攻分野における実務に関する研修等</p>
<p>研修名：udemy「現役シリコンバレーエンジニアが教えるアジャイル開発」  連携企業等：udemy  期間(日時)：令和5年4月4日(火)15:00~18:00  対象：IT系学科教員  内容：現役シリコンバレーエンジニアが教えるアジャイル開発</p>
<p>研修名：国立情報学研究所 大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム「教育機関DXシンポ」  連携企業等：国立情報学研究所  期間(日時)：令和5年5月14日(日)15:00~16:00  対象：IT系学科教員  内容：生成系AIの仕組み 大学における実用例</p>
<p>研修名：AzureTechLabPLUS  連携企業等：Microsoft Base Kobe  期間(日時)：令和5年5月26日(金)18:00~20:00  対象：IT系学科教員  内容：MicrosoftおよびChatGTPに関する各種プレゼン。キーノート：ChatGPTとMicrosoft OpenAI社とzureOpenAIServiceとの関係性(日本MS社)、企業プレゼン4名。</p>
<p>研修名：教育DXセミナー データサイエンス教育におけるヤフービッグデータの活用  連携企業等：ヤフー・データソリューション  期間(日時)：令和5年6月28日(水)14:00~15:00  対象：IT系学科教員  内容：大学・研究機関の関係者様向けに、ヤフー・データソリューションがご提供する「DS. INSIGHT」の内容と、データサイエンス教育における活用方法について、実際の事例を交えながらご紹介</p>
<p>研修名：第4回Linux&amp;Open Source アカデミックパートナーズフォーラム  連携企業等：Linux&amp;Open Source Academic partner's forum  期間(日時)：令和5年6月30日(金)16:30~18:00  対象：IT系学科教員</p>

内 容：Linux関連の情報、東北電子専門学校 サイバーセキュリティ科のLinux関連授業の取り組み紹介
<p>研 修 名： SharePointを活用したMicrosoft Power Platformのデータ連携例 Power AppsとAutomateによる開発実践  連携企業等： 情報技術開発株式会社  期間(日時)： 令和5年7月13日(木)14:00~15:00  対 象： IT系学科教員  内 容： 本セミナーでは、業務部門が利用するアプリケーション開発に柔軟な対応ができ、市民開発に有効とされているローコード開発製品「Microsoft Power Platform」でのアプリケーション開発や業務の自動化方法をご紹介します。今回はMicrosoft</p>
<p>研 修 名： データベース技術を習得してワンランク上のエンジニアになるために  連携企業等： LPI-Japan  期間(日時)： 令和5年7月26日(水)13:00~14:45  対 象： IT系学科教員  内 容： 本セミナーでは初級のデータベース技術者、およびこれからデータベース技術者を目指す方に向けて、データベース技術を習得してワンランク上のエンジニアになるためのロードマップを明らかにします。</p>
<p>研 修 名： 【第68回】大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム「教育機関DXシンポ」 . 「コロナ期  連携企業等： 国立情報学研究所  期間(日時)： 令和5年7月26日(水)10:35~12:15  対 象： IT系学科教員  内 容： 大規模言語モデルを利用した対話システムの構築など</p>
<p>研 修 名： ボトムアップのDX  連携企業等： データアントレプレナーコンソーシアム  期間(日時)： 令和5年7月26日(水)18:00~20:00  対 象： IT系学科教員  内 容： 「事業成果につながる」「地に足のついた」DXを行うための方法論などについて</p>
②指導力の修得・向上のための研修等
<p>研 修 名： AI特別研修  連携企業等： 日本ChatGPT研究所  期間(日時)： 令和5年4月13日(木)17:00~18:00  対 象： 全学科教員(選抜)  内 容： 生成AIに関する最新情報と専門教育におけるAIの活用について</p>
<p>研 修 名： 東京大学 吉田壘 研究室 「教員向け ChatGPT 講座 ~基礎から応用まで~」  連携企業等： 東京大学 吉田壘 研究室  期間(日時)： 令和5年5月14日(日)18:00~22:00  対 象： IT系学科教員  内 容： 教員による活用例。学生へのガイダンス例。大学での実践例等</p>
<p>研 修 名： 『課題解決型データサイエンス人材を育成する』webセミナー  連携企業等： 一般社団法人データサイエンティスト協会  期間(日時)： 令和5年5月15日(月)18:00~19:30  対 象： IT系学科教員  内 容： 組織に必要なデータドリブン思考について。課題解決型人材を育成する難しさやヒントについて。</p>
<p>研 修 名： COPLIセミナー「アントレプレナーシップ」  連携企業等： 地域ICT推進協議会 (COPLI)  期間(日時)： 令和5年5月31日(水)16:45~17:45  対 象： IT系学科教員  内 容： アントレプレナーシップ養成についての事例紹介と考え方</p>
<p>研 修 名： メンタルヘルス定例会  連携企業等： 一般社団法人カウンセリングルーム BigSmile  期間(日時)： 令和5年6月8日(木)16:20~17:20  対 象： 全学科教員(選抜)  内 容： 学生指導上の効果的なメンタルヘルスケアについて</p>
<p>研 修 名： 著作権セミナー「A Iと著作権」  連携企業等： 文化庁  期間(日時)： 令和5年6月19日(月)14:00~15:00  対 象： IT系学科教員  内 容： 著作権法の正しい理解に基づいて生成AIの利活用がされるよう、現行の著作権法の考え方やAIと著作権の関係について説明</p>
<p>研 修 名： ハラスメント防止対策とジェンダー平等  連携企業等： 一般社団法人カウンセリングルーム BigSmile  期間(日時)： 令和5年7月25日(火)10:00~12:00  対 象： 全教職員  内 容： 学校業務におけるハラスメント防止対策とジェンダー平等について</p>
<p>研 修 名： 第70回教職員教養講習会  連携企業等： 兵庫県専修学校各種学校連合会  期間(日時)： 令和5年8月1日(火)~令和5年8月4日(金)  対 象： 全学科教員  内 容： 8月1日： 「専修学校の現状と課題について」  「大阪万博とひょうごフィールドパビリオン」</p>

- 8月2日：「学校現場でLGBTQをサポートするために」  
「専修学校・各種学校の制度・動向等について」  
「学生を元気にする面談の技術」  
「高専連携プログラム事業について」
- 8月3日：「若者に多い消費者トラブルについて」  
「ChatGPTについて」  
「ハラスメントについて」
- 8月4日：「SDGs研修～SDGsの内容と取組事例の紹介」  
「リカレント教育について」  
「神戸市長と兵専各神戸地区協議会との意見交換会～神戸市のまちづくり人づくり戦略」

研修名：教職員・情報通信技術支援員（ICT支援員）著作権講習会

連携企業等：文化庁

期間(日時)：令和5年8月18日(金) 14:00～16:00

対象：IT系学科教員

内容：“知財創造教育”を実践する上で必要となる“著作権に関する制度”について解説し、著作権を巡る社会の現状や“教育実践事例”などを紹介

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校は学校自己評価および学校関係者評価により、組織的・継続的な教育活動の改善を行い、教育の質保証・向上に努める。学校評価とは、学校教育法第42条及び学校教育法施行規則第66条に規定する自己評価並びに同法第43条及び同法施行規則第67条に規定する学校関係者評価をいう。

自己評価を適切かつ円滑に行うための組織として学内に自己評価委員会を置き、年1回前年度の学校自己評価を行う。校長は自己評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会（以下「関係者委員会」という。）に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。

関係者委員会は、関連業界等関係者、卒業生、保護者、教育に関し知見を有する者、その他校長が必要と認める者から校長が委嘱する委員により構成する。

関係者委員会は、校長が招集し、委員長がその運営にあたる。

関係者委員会は、自己評価の進捗状況に応じ次年度の計画策定までの間に1回以上開催しなければならない。

教職員は、学校関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。

校長は、学校関係者評価結果について、理事会の承認を受け、公表しなければならない。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会においては、学校自己評価の結果を基にして意見交換が行われ、今後の学校教育・職業教育の在り方、国が推進する教育改革や社会変化に対する本校の取り組み、教育ミッションや教育の方向性、従来の枠組みに囚われない技術教育の在り方、就職や進路についての意識付けや産業界との連携の在り方、学生のモラル向上、学生の自己成長支援や個別対応など多様な観点から貴重な意見を得ることができた。

これら産業界等からの意見の活用について、経営会議をはじめ教務委員会や各学科会議等学校内部の会議において再検討した結果、以下のような取り組みを推進することに決定した。

学校全体の施策に係ることとして、

- ・技術革新、特にAI技術の進展やその活用技術の発展、Web技術を基盤とする産業や社会生活の変化に伴い、求められる実践的技術も変化・多様化している。従来型の教育の枠に囚われない多様な教育や、リカレント教育へのニーズも高まっている現状において、本校の教育ミッションに対する産業界の期待と反響は大きく、更に先鋭化された教育課程設計と環境整備の推進、他学科への反映を図ることを決定した。

- ・教育ミッションのさらなる追求や共創プログラムの導入は、自らが課題を設定し、多様な知見を持つ周囲と協同して解決を図ることを求められる今後の社会に対する正しい方向性の打ち出しであり、今後の社会変化に対応する技術教育については柔軟で臨機応変な対応とともに、教育環境整備と合わせて推進することを決定した。

- ・キャリア教育の視点と合わせ、アクティブラーニングなどによる学生の主体的な学びへの取り組みは、今後求められる人材の育成に必須であり、教員研修の拡充やカリキュラム設計、専門教育との融合、他の専門学校や大学、高等学校や中学校の教員、就職先である産業界との人材育成に関する協議などについて検討を推進することを決定した。

- ・在校生や卒業生の就職支援やキャリア支援、在校生・卒業生の保護者・関係者との情報共有等も合わせたキャリア支援の強化や就職に対する意識付けの強化のため、キャリアセンターの機能強化や学校基幹システム改革に合わせた就職支援システムの機能強化、学生サービスの向上を検討することを決定した。

- ・修学における精神的課題や経済的課題など、学生の抱える課題は多様化・複雑化する傾向にあり、多様な学生に対するケア体制の充実と効率化を図ることを決定した。

学科の施策に係ることとして

分野全体の発表会での発表方法の改善を図った。具体的には昨年度に引き続き、学生の成果発表に加えてポスターセッションを設定した。また、昨年度に引き続き、本選出場はかなわなかったものの教員評価で優秀なチームをエキシビジョン発表として発表の機会を提供した。また、学内で推進している他学科や外部と連携した開発を促進するため部門賞に新たに「共創賞」を設けた。これらの施策により学生の意欲向上につながった。なおR04年度に関してはコロナ禍による影響で全面オンラインでの開催とした。

また、R02新設のAIリテラシー教科を継続開講、また、2年次の選択科目に従来のネットワーク、アプリケーションに加えてR02新設したAI選択教科を継続開講した。

R04年度よりIPA主催の情報処理技術者試験（基本情報）の試験範囲が変わることから、1年次のカリキュラムについて、それに対応した授業内容に変更を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
永吉 一郎	地域ICT推進協議会 会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年)	企業等委員
網本 雅生	NPO法人神戸デザイン協会 理事長	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年)	企業等委員
横山 剛	株式会社SRC 取締役会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ( ) )

URL : <https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/public.info.html>

公表時期： 令和5年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、企業等の学校関係者の本校に対する理解を深めるとともに、連携及び協力の推進に資するため、教育の成果等を含めた教育研究活動その他の学校運営の状況に関する情報を、積極的に提供するものとする。  
提供する情報は、専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインに沿って項目を設定し、毎年更新するとともに項目の見直しも図る。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校の目標及び計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数 ・カリキュラム ・新旧・卒業の要件等 ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・資格取得、検定試験合格の実績 ・卒業生数、卒業後の進路
(3) 教職員	・教職員数 ・教職員の組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況 ・実習・実技等への取組状況 ・就職支援等への取組支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動
(6) 学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金の取り扱い ・活用できる経済的支援措置の内容等
(8) 学校の財務	・収支計算書
(9) 学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	・留学生の受け入れ・派遣状況 ・外国の学校等との交流状況
(11) その他	・学則 ・学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ( ) )

URL : [https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/public\\_info.html](https://www.kobedenshi.ac.jp/info/features/public_info.html)

公表時期： 令和5年8月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程 I Tスペシャリスト学科) 令和5年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			処理演習	現代人に必要な情報モラル、情報セキュリティについて学ぶ。また情報処理技術者能力認定試験の3級及び2級の合格を目指した対策授業を行い、問題演習によって理解を深める。	1通	51			○		○		○		
	○			A Iリテラシー	昨今のIT技術として正しくAI技術の原理を理解し、最先端のAI技術活用状況について学習する。また、AI技術を活用方法の基礎を学習し、各自の課題制作で活かせるようにする。	1通	34			○		○		○		
	○			アルゴリズム	プログラミングの基礎となる問題解決手順を理解し、自ら設計・製作できるようにすることを目指す。また、AI技術を活用方法の基礎を学習し、各自の課題制作で活かせるようにする。	1通	85			○		○		○		
	○			プログラム設計演習	プログラム設計における開発ドキュメントの詳細を、ウォーターフォールモデルの設計工程に従い、要件定義、各種必要書類、流れ図、ガントチャートなどの作成演習を通じて習得する。	1通	68			○		○		○	○	
	○			プログラミング I	課題を通じて、プログラミングの基本となる順次・選択・繰り返しを説明する。システム化する目的を文章化・フローチャート化することで、プロセスを視覚化し、ScratchやC言語等を使ってプログラミング能力を養う。	1前	34			○		○		○		
	○			アプリケーション	基本的なPC操作からITエンジニアがよく利用するアプリケーションとしてOffice系ソフトの活用技術を習得し、資料作成、発表演習を行う。	1前	34			○		○		○		
	○			C言語 I	C言語の基本となる入出力、演算子、配列、分岐繰り返し処理といった文法を習得し、プログラムの順次・選択・繰り返しといった仕組みを学ぶ。また、簡単なプログラムの読み書きができるよう、課題を通じて実装力を養う。	1前	85			○		○		○	○	
	○			I C T 概論	将来多岐にわたるITエンジニアになるために必要となるICT全般の基礎知識を習得する。また、問題演習を通して秋以降に随時実施される基本情報技術者試験の合格を目指す。	1前	153			○		○		○		
	○			プログラミング II	C言語等のプログラミング言語を用いたグループ演習を行う。グループ内でシステムの企画、実装、マニュアル作成、発表等を実施することで、開発の流れやスケジュール管理能力を体感的に養う。また、自主的な役割分担を通じて自身の強みを発見する	1後	68			○		○		○		
	○			資格対策 I	次年度上期に実施される基本情報技術者試験及び応用情報技術者試験の合格を目指す。過去問題を中心とした問題演習とその解説を行うとともに、該当試験の模擬テストを繰り返し行う。	1後	68			○		○		○		
	○			C言語 II	C言語によるプログラムの中核技術となる関数、ポインタ、構造体、ファイル入出力といった文法を学び、C言語の機能をフルに活用した小規模プログラムを開発できる技術を身につける。	1後	85			○		○		○	○	
	○			I C T 特論	前期のICT概論で学んだ知識をベースとして、将来高度IT人材になるために必要なデータベース、ネットワーク、情報セキュリティ、開発技術などの応用的なICT技術を学ぶ。	1後	68			○		○		○		
	○			就職対策	多くの企業が採用試験の初期選考で実施するSPI試験。基準点をクリアしないと次の選考に進めないことが多く就職活動の第一関門になっている。概要と対策を学びその後の就職試験対策を効率的に進める素地を養う。	1後	17			○		○		○		
	○			キャリアデザイン	グループワークを通して、コミュニケーション能力を高める。実践のある講義や5択問題を通じて、マナーを始め、社会人として必要とされることを習得して、卒業後に備える。	2通	68			○		○		○	○	○
	○			ネットワーク技術	OSI7階層モデルを基礎として、TCP/IPネットワークを構成する要素と、代表的なアプリケーションプロトコルの基本を学習する。本科目で得た内容については、「ネットワーク構築」でも関連事項として扱われる	2通	68			○		○		○		
	○			データベース技術	SQLを中心としたデータベースへのアクセス手法を習得する。基本を学んだ上で、集計とグループ化、副問い合わせ、複数テーブルの結合など必要とされる手法についても学ぶ	2通	68			○		○		○		○
	○			ドキュメント技法	様々な調査技法について学び、調査を実施できるようにする。また、それら調査結果をもとに、レポート(報告書)をワープロソフト等を用いて作成できるようにすることを目指す。	2前	17			○		○		○		
	○			プログラミング III	C#言語の環境構築と基本構文を学びアプリケーション設計開発できる技術を学ぶ。Python言語の基本となる対話型実行と入出力、演算子、データ構造のプログラム作成による実行、制御構造や関数等を学び、基本的プログラムを作成できるようにする。Java言語の環境構築と基礎・特徴を学ぶ	2前	85			○		○		○		

19	○		L i n u x I	Linux環境のインストール、環境設定、コマンド操作を通じLinuxの基礎を習得する。併せてOSの持つ基本的な概念として、プロセスやパイプライン処理、ネットワーク操作を学ぶ。これらの要素技術は、LinuxⅡでも継続して利用する	2 前	85			○	○	○	○	○	○
20	○		資格対策Ⅱ	基本情報技術者試験及び応用情報技術者試験・ITパスポート試験等、各種検定試験の取得を目指し、過去問題を中心とした問題演習と解説、及び模擬テスト・確認テストを繰り返し行う	2 前	68			○	○	○	○	○	○
21	○		プログラミングⅣ	プログラミングⅢで学習した内容を更に発展させて、より応用的なプログラムを作成できるようにする。また、年度末のグループ課題制作における中心的なプログラム言語となる	2 後	85			○	○	○	○	○	○
22	○		L i n u x Ⅱ	Linuxにおけるサーバー環境の利用を体験・学習し、サービス構築の基盤構築の基礎を習得する。一般的なLAMPスタックの構築及びアプリケーションを動作できる学習する	2 後	51			○	○	○	○	○	○
23	○		I o T 基礎	組み込み向け開発ボードを用いたハードウェア制御環境を構築し、Linuxとスクリプト言語を用いた制御の基礎を習得する。スクリプトについては主にPythonを用いるが、状況に応じて選んで使えるようにする	2 後	34			○	○	○	○	○	○
24	○		制作実習Ⅰ	ソフトⅠ・Ⅱコースで学習・習得した知識や技術をベースに、グループで開発を行い、年度末に発表を行う。単に開発を行うだけでなく、UIやUX、利用ターゲット等を意識した開発を行う	2 後	85			○	○	○	○	○	○
25	○		C # I	VisualStudioによるC#の開発を学習する。オブジェクト指向型言語の開発とイベントドリブン型のプログラミングを体験する。簡単なプログラムから応用プログラム作成までを実習メインで修得していく。	2 前	68			○	○	○	○	○	○
26	○		ネットワーク構築Ⅰ	Linuxを用いたサーバ構築の前段階として、仮想マシンでのサーバ構築の基礎的な技法を実習を通じて習得する。利用するサーバはWebサーバとその周辺とする。仮想サーバ構築の道具としてはVirtualBoxとVagrantを用いる	2 前	68			○	○	○	○	○	○
27	○		A I 資格	広くAI技術の仕組み、概略、トレンドを学び、AI技術を正しく理解し、AI時代にマッチした技術者素養を養成する。サーティファイAI検定を中心に、G検定までの資格対策を通して、AI技術を学ぶ。	2 前	68			○	○	○	○	○	○
28	○		C # Ⅱ	VisualStudioによるC#の開発を学習する。C#Ⅰで学習した文法内容に追加して更に進んだ内容を学習する。ファイル操作や複数フォームでのデータ受渡しなどの実際の開発に直結した内容を学習する。	2 後	68			○	○	○	○	○	○
29	○		ネットワーク構築Ⅱ	ネットワーク構築Ⅰを基礎とし、サーバ間でネットワーク通信による連携が必要なシステム構成について複数サーバ環境の構築・テストなどを実習を通じて習得する。	2 後	68			○	○	○	○	○	○
30	○		P y t h o n	3年次に受講するAI実装科目に向けて、機械学習を中心としたAI技術を利用するにあたり必要となるPythonの文法事項やプログラミング技法、外部モジュールを用いたデータの加工方法、可視化方法などについて学習する	2 後	68			○	○	○	○	○	○
31	○		プロジェクト管理	PBL（プロジェクト形式の学習）を中心に、IT開発プロジェクトのマネジメント手法、およびシステムの企画や顧客の要望のとりまとめなどの上流工程を模擬プロジェクトの遂行により学習する	3 通	136			○	○	○	○	○	○
32	○		制作実習Ⅱ	2年次までで学習した内容を活かして、個人でプログラム制作を行う。各自の得意・不得意や興味を考え、自ら課題内容・制作レベルの設定、情報収集を行い、課題制作に取り組む。	3 通	102			○	○	○	○	○	○
33	○		I o T 実習	RaspberryPiを用い、センサーからのデータ取得、インターネットを通してのデータ処理等、IoT(Internet of Things)に必要な基礎知識、技術の習得を実習を通して行う	3 前	34			○	○	○	○	○	○
34	○		システム設計Ⅰ	システム開発における各種設計技法のうち、アジャイル開発の全体概要の学習と開発手法のスクラムの基本的な運用方法を学習する。さらに設計技法として、UMLモデルの基本操作についても学習する	3 前	85			○	○	○	○	○	○
35	○		W e b アプリケーション開発	各自のPC上に開発環境を構築し、プログラミング言語PHPをベースに簡単なWebサイトの構築からネットワーク、データベースを利用した高度なWebアプリケーションの開発までを習得する	3 前	68			○	○	○	○	○	○
36	○		システム設計Ⅱ	システム設計Ⅰで学習したUMLモデルの基本に対し、この科目ではさらにモデルを追加拡張して学習を進め、複数のモデル間の連動性を学ぶ。また、後半では他科目との合同授業で、グループ演習を実施する	3 後	85			○	○	○	○	○	○
37	○		システム開発演習	前期で学習した「Webアプリケーション開発」の知識と技術をさらに発展させ、自分たちの身近にある課題をシステム的に解決し、実際に使えるWebアプリケーションをチームで開発していく	3 後	68			○	○	○	○	○	○
38	○		A I 特論	Pythonの各種ライブラリを利用して、深層学習を中心としたAI技術の実装力を身につける。前半はクラウド環境、後半はエッジデバイスを利用しながら、体験的な学習を行う。	3 通	136			○	○	○	○	○	○
39	○		システム設計特論Ⅰ	システム開発の対象をWebアプリケーションシステムに絞り、そのWebデザインの基本技法と開発手法を習得する。デザイン技術としては、カラー配色・レイアウトを主に学ぶ。開発手法としては、ワイヤーフレーム作成までの設計技術及び工程管理を学ぶ	3 前	68			○	○	○	○	○	○

40	○	Webプログラミング	HTML5、JavaScript、CSS3の基本を学び、簡単なWebページの作り方とWebサイト作成の流れを習得し、その後、JavaScriptライブラリであるjQueryも利用した高度なWebサイトの作成技術を習得する	3前	68			○	○								
41	○	セキュリティ特論Ⅰ	Webアプリケーションにおける脆弱性(ぜいじゃくせい)について学習し、安全なプログラミング技術を習得する。主な素材としては、PHP言語によるWebアプリケーションを用いるものとする	3前	68			○		○							
42	○	アプリケーションサーバ構築Ⅰ	仮想化サーバおよびコンテナ技術を使った可用性の高いサーバ環境構築の技術と環境の自動化を学ぶ。主な技術としてPOSIX上のものとType2仮想化、コンテナの制御について学習する	3前	68			○		○							
43	○	AI活用	Pythonの基礎をおさらいし、オブジェクト指向プログラミングを学ぶ。Numpy、Pandasなどデータ分析パッケージの使い方を学ぶ。Matplotlibで可視化を学び、AI活用を学ぶ。機械学習を学びデータ解析を学ぶ。	3前	68			○		○							
44	○	システム設計特論Ⅱ	前期科目「システム設計特論Ⅰ」の内容をさらに拡大し、集客できるWebサイトの設計技術の習得に加えて、購入するWebサイトにするために必要な設計技術も習得していく	3後	68			○		○							
45	○	スマートフォンアプリ開発	HTML5、JavaScript、CSS3をベースとし、JavaScriptライブラリであるjQueryとjQuery Mobileを利用したWebベースのスマートフォンアプリの開発技術について学習し、習得する	3後	68			○		○							
46	○	セキュリティ特論Ⅱ	セキュリティ特論Ⅰの内容に基づき、引き続き脆弱性についての学習を行い、最新のセキュリティ事情についての知識も習得する。前期同様PHPが中心であるが、重要なセキュリティ発生時などは適宜追加で解説していく	3後	68			○		○							
47	○	アプリケーションサーバ構築Ⅱ	Kubernetesを中心とした、コンテナオーケストレーション技術について学び、minikubeなどを用いてのローカルでの環境構築と使い方を学び、基本的なサービスの公開を行う。	3後	68			○		○							
48	○	強化学習	繰り返し試行することにより、与えられた環境下で最大の報酬を得るための方法をコンピュータ自らが習得する「強化学習」について、その代表的なアルゴリズムを実習を交えながら学習する。後半は、3年生の最終課題の作成を他科目と合同で行う	3後	68			○		○							
合計				48科目	3366単位時間(単位)												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	<p>卒業要件 各年次の進級要件を満たした者で、学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業までに履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ各年次の出席率80%以上の者。</p> <p>進級要件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該年次で履修しなければならない科目を修得(成績評価3以上)し、かつ年間の出席率80%以上の者。</p> <p>成績評価について 各期末の成績評価(100点満点)において、80点以上を5、60点以上80点未満を4、40点以上60点未満を3、20点以上40点未満を2、20点未満を1とする。成績評価は試験、平常評価、レポート、実習課題、合評審査により行う。</p>	1学年の学期区分	2期
履修方法:	<p>履修方法及び総授業時間数の計算法</p> <p>1年次:全科目必修(850時間) 1年次修了に必要な授業時間数は850時間</p> <p>2年次:必修科目(合計714時間) 選択必修科目は下記いずれかの組み合わせ1つ(各136時間)を選択する 選択1(C#Ⅰ・C#Ⅱ) 選択2(ネットワーク構築Ⅰ・ネットワーク構築Ⅱ) 選択3(AI資格・Python) 2年次修了に必要な授業時間は必修科目714時間+選択必修科目136時間=合計850時間</p> <p>3年次:必修科目(合計578時間) 選択必修科目は下記いずれかの組み合わせ1つ(各272時間)を選択する 選択1(システム設計特論Ⅰ・Webプログラミング・システム設計特論Ⅱ・スマートフォンアプリ開発) 選択2(セキュリティ特論Ⅰ・アプリケーションサーバ構築Ⅰ・セキュリティ特論Ⅱ・アプリケーションサーバ構築Ⅱ) 選択3(AI特論・AI活用・強化学習) 3年次修了に必要な授業時間は必修科目578時間+選択必修科目272時間=合計850時間</p> <p>学科の修了に必要な総授業時間数は1年次850時間+2年次850時間+3年次850時間=合計2550時間</p>	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。